

MMD 療法のコツ！：No.1 剃毛の実施

今回から 3 回に渡り日本獣医生命科学大学附属動物医療センターで MMD 療法を担当している動物看護師から治療法の具体的な手技の解説を致します。

MMD 療法とは、慢性増殖性皮膚炎を対象とした治療法です。その手順は次の通りです。

1	準備	皮疹部の剃毛をおこなう
2	ステロイドの塗布	剃毛部にモメタオティックの塗布
3	外用剤の浸透	3 時間の付けおき
4	洗落としと薬浴	外用剤を洗い流し、マラセブシャンプー薬浴
5	シャンプー後のドライ	タオルドライ、ドライヤーによるブロー
6	保湿	ダームワンで皮疹部（剃毛部）に塗布

今回は①“皮疹部の剃毛”についてご紹介致します。

MMD 療法を行うにあたり、まず被毛が密な犬に対し下記の理由で患部の剃毛を行います。

- ・患部にモメタオティックを浸透しやすくする
- ・オーナー様が自宅でモメタオティックを塗布する場合を考慮し、塗布部位を把握しやすくする
- ・モメタオティックの使用量を減らすことができ経済的

実際に剃毛を行っているところを写真でご紹介致します。

以下で説明する部位は典型的な発症部位です。



☆**皮疹部がある部位はできる限り剃毛しましょう。**



**剃下顎
頸腹部**



(皮疹がある場合、)頸腹部から顔、特に顎や口唇部までしっかりと剃毛する



**胸腹部
腹側部**



**皮疹がある場合、
被毛の多い部位は粗く
バリカンをかけてから、
逆バリカンかけを行う**



四肢
端部

**皮疹がある場合、
手先(指間、パット間)は刃で切れやすいため毛を揃うように剃毛する**



完成
剃毛後

以前は、剃毛をせずに MMD 療法を行っていましたが、剃毛をすることにより皮膚の状態がよりわかりやすくなり、オーナー様も皮膚の変化に気づきやすくなりました。

次回は、モメタオティックの塗布のポイントについてご紹介致します。